

「九州の戦争遺跡 ～ミナマタ・ハンセン・戦跡の記憶を継承する～」

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生

1 はじめに ～「戦跡キャラ」は、時代を写す鏡か！～

戦跡キャラ「クマリン」に見る戦跡の観光地化・戦争の商品化 戦争や戦争遺跡の美化
十五年戦争への反省 歴史事実の歪曲・矮小化 行政が絡むプチ遊就館・新たな靖国史観

2 九州の戦争遺跡

(1) 被害の視点「熊本空襲で投下されたM76落下傘付き500㍑焼夷弾」

くまもと戦跡ネット啓発リーフレット『M76焼夷弾と熊本空襲』を参照

□オリンピック作戦（11／1）に向けて、米極東航空軍による中・南九州への攻撃

□新たな「証言の掘り起こし」による「熊本空襲の新実相と歴史像の復元」へ

(2) 加害の視点「三菱重工業熊本航空機製作所の地下工場群」

くまもと戦跡ネット啓発リーフレット『健軍飛行場』を参照

□朝鮮人労働者徴用による本土決戦に向けての地下工場群の建設 多くの戦争遺跡で通底

3 戦争遺跡の調査、保存と継承・活用

(1) 調査

□戦後74年、戦争体験者の証言を「心に刻む」最後の機会では

□歴史事実の埋没される記憶を「新たな証言」として「呼びさます、掘り起こす」機会

□福岡県「県内戦争遺跡悉皆調査」の基礎調査。2019年度に報告書取りまとめへ

県一次データ「858件」から、平成30年10月「1,476件」へ。重要遺跡の詳細調査中。

全国では沖縄県、愛知県、滋賀県について「4件目」の集約

(2) 保存

□戦争遺跡の保存 文化財への指定 記録保存 資料の集約 全国の事例との検証

□戦時資料の収集 証言の集約 項目別の類型化

(3) 継承・活用 ～新たな靖国史観の拡散・拡大とならぬように！～

□熊本県菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」保存継承での迷い！

築81年での経年変化 熊本地震からの復旧・復興 戦争遺跡修復の課題

くまもと戦跡ネット啓発リーフレット『菊池飛行場を活写する』を参照

□熊本県球磨郡錦町立「人吉海軍航空基地資料館」と歴史像 平和継承への学びの欠如

□「（仮称）北九州市立平和資料館」の開設。平成28・29年度あり方懇話会、基本計画策定、建設予定地調査で火薬庫基礎確認、内部設計作成中。埋文センター内「戦時資料展示コーナー」をリフォームして開館。北九州空襲や長崎原爆資料、市民の戦時資料を収集中

□宇佐海軍航空基地跡「宇佐市平和ミュージアム（仮）」を平成32年度に開館予定

戦争遺跡・遺構調査内容の展示。基本計画・基本構想策定済み。市民向け事業説明会やオープン講座開催。旧基地内遺構や資料の調査・整備。新たな靖国史観への危惧！

4 「血」と「智」、「地」による継承

(1) 水俣病問題の「血」による継承

□水俣病「かたりべ制度（語り部・伝え手）」での継承と患者家族会での継承

□水俣の地域再生としての「もやいなおし」が、地へと繋がる！

(2) ハンセン病問題の「智」による継承

□「菊池恵楓ボランティアガイドの会」活動による歴史的建造物、差別の場所での証言継承

□智の拠点「社会交流会館」から、地への広がる！

(3) 戦争遺跡・戦時資料の「地」による継承、「忘れえぬかたち」

□自分自身に関わる身近な「戦争遺跡」を通して、地（地域）での再生へ！

□地域史としての戦争遺跡の「文化財指定・登録」

□証言・歴史資料や記録の集積・集約、アーカイブス化、そして「忘れえぬかたち」へ

5 まとめ ～戦争遺産（戦争遺跡・遺物・重ねた証言）の継承に向けて～

○戦争遺跡の継承は、身近な被害と東アジア視点での加害の継承となるべき！

○第23回戦争遺跡保存全国シンポジウム熊本大会 8月24日・25日熊本市国際交流会館

資料 1

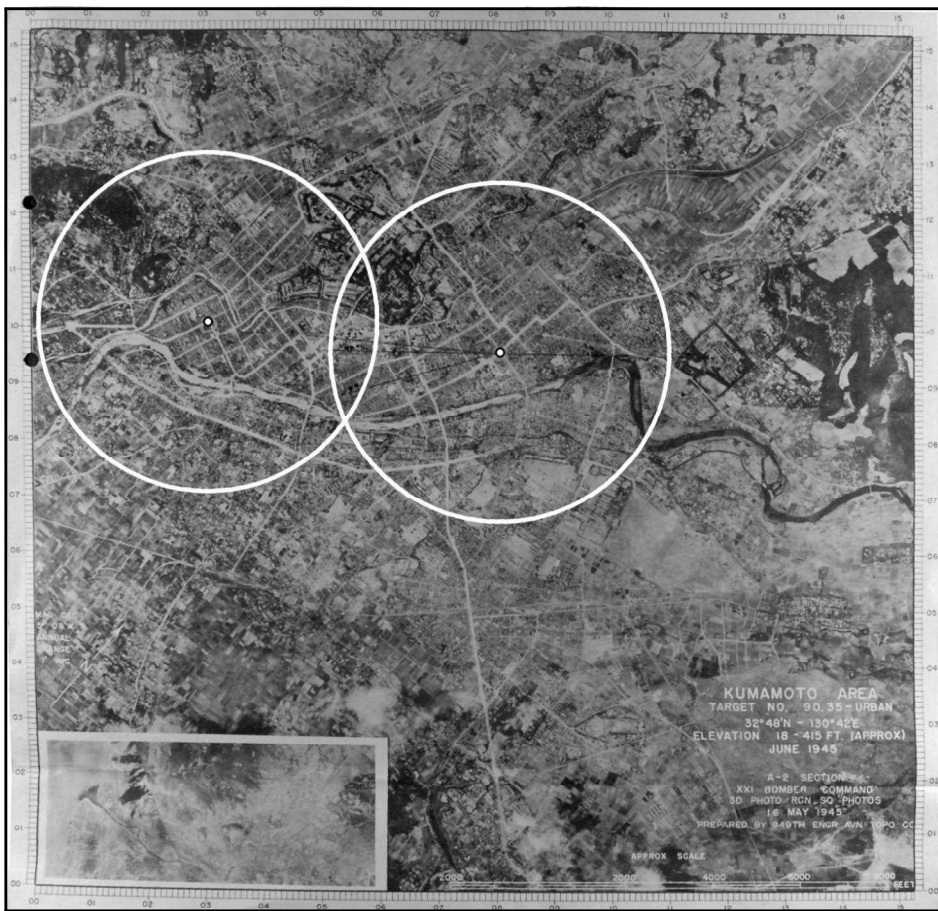


写真1 熊本空襲のリト
モザイク。爆撃中心点
と半径4000mの確
率誤差円。左が呉服町
電停付近、右が明午橋
通り交差点

工藤洋三氏提供
米国立公文書館蔵

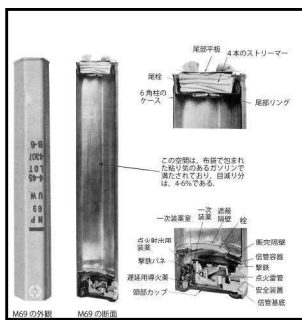
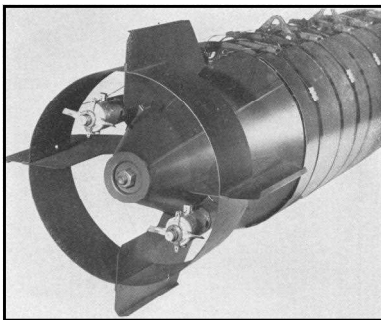
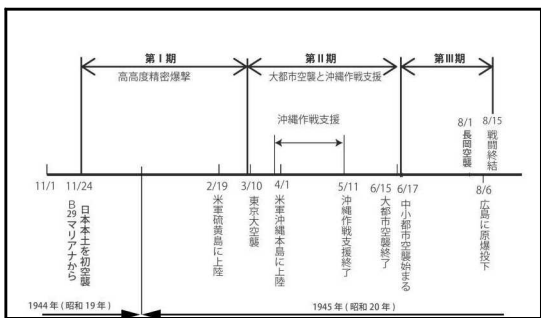


図1 B29による日本本土空襲の各期 ※成都基地からの空襲はブレ期・戦術爆撃
写真2 E46収束焼夷弾 M69焼夷弾を19発2段で、38発収束
写真3 M69焼夷弾の外観と内部構造

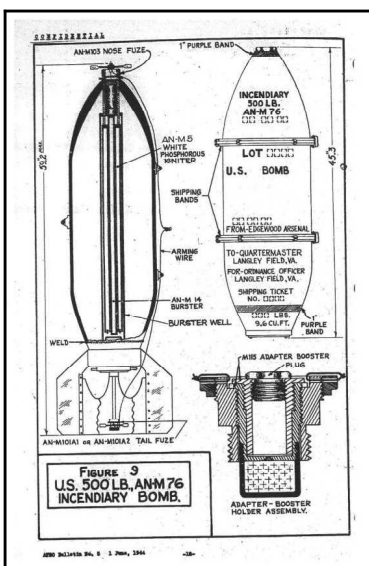
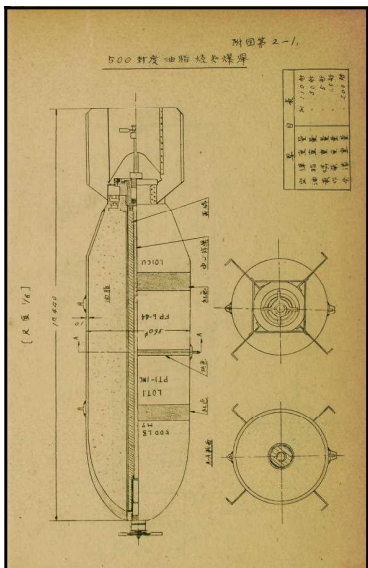


図2 米軍500封度油脂焼夷爆弾
(INC500LB)構造展開図

図3 米軍資料によるM76焼夷弾弾体及びM101信管構造図
山本達也氏提供

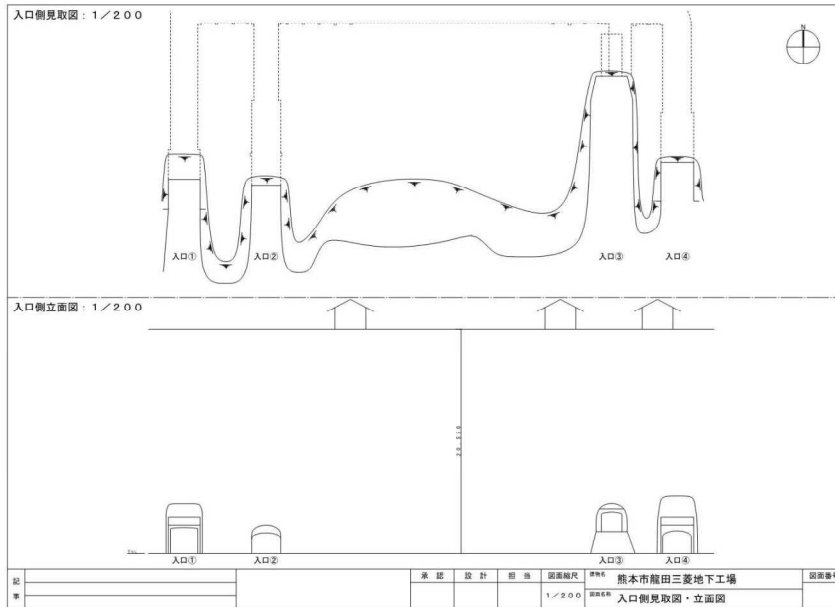
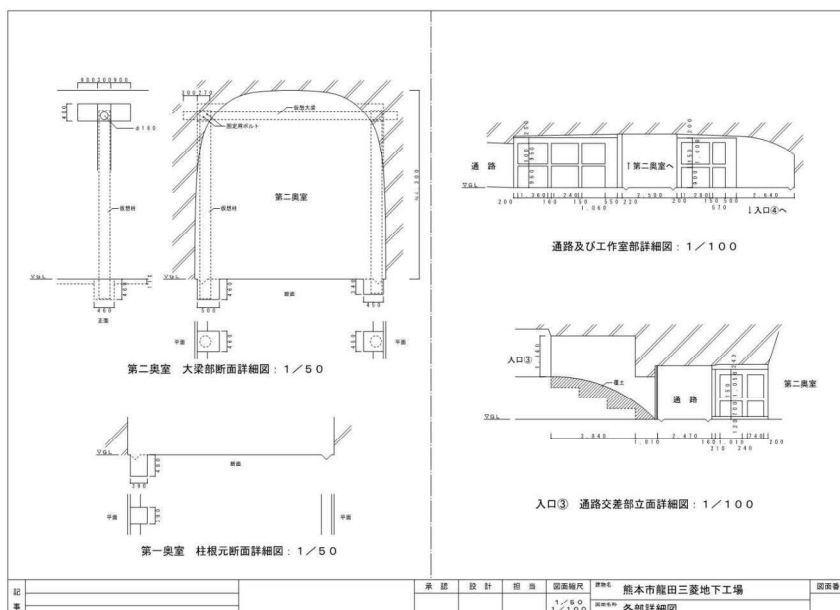
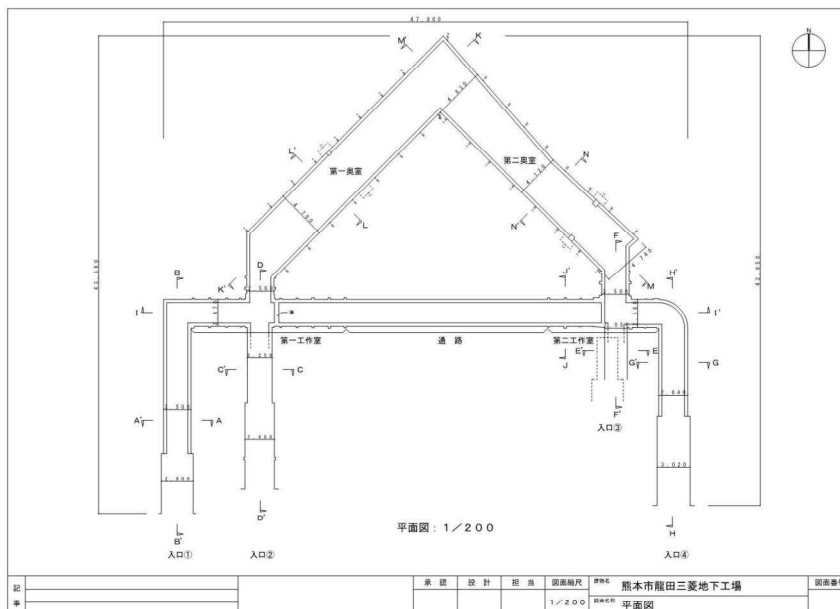


図4・5・6
熊本市東区龍田町三菱重工業熊本航空機製作所地下工場
「三菱下南部・供合小峯地下工場」実測図



福岡県戦争遺跡調査基本方針

1 必要性と目的

戦争の記憶・記録を次代に継承していくことは、第二次世界大戦後、平和国家として再出発した我が国に課せられた非常に重要な使命である。

しかしながら、戦争に関する遺構と遺構に含まれる遺物であって、歴史上又は学術上重要であるもの（以下「戦争遺跡」という。）があるにもかかわらず、その認識・評価がまだ定まっていないう面もあることから、大戦終結後70年以上が経過した今日、その多くが開発や経年劣化の進行により破壊や滅失の危険にさらされている。

このため、福岡県教育委員会において、県内の戦争遺跡について悉皆調査を行い、戦争遺跡の適切な保護の推進に資するものとする。

2 対象・範囲

調査の対象は、明治元年（1868）から、第二次世界大戦終結時の昭和20年（1945）までの間に、土地（海域を含む。）に形成された構築物等のうち、次に掲げるものとする。

- ①政治・行政関係：陸軍省、海軍省などの地方官衙、師団司令部、連隊本部その他の部隊関連施設、陸軍病院、陸軍学校、研究所など
- ②軍事・防衛関係：要塞（堡壘・砲台）、高射砲陣地、飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、洞窟陣地、特攻基地、退避壕、試射場など
- ③生産関係：陸軍造兵廠、航空機製作工場その他の軍需工場など
- ④戦闘地・戦場関係：空襲被災地、被災痕跡（弾痕・爆弾穴）など
- ⑤居住関係：防空壕、俘虜収容所など
- ⑥埋葬関係：陸軍墓地、海軍墓地、捕虜墓地など
- ⑦交通関係：軍用鉄道軌道、軍用道路など
- ⑧その他：航空機の墜落跡、記念碑、慰霊碑、忠霊塔、忠魂碑、戦没者記念碑、奉安殿、軍馬塚、境界標など

※上記に関連して、通常の発掘調査による遺構・遺物の事例も取り上げる。

3 組織・体制

- ・調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務とする。
- ・調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」を設置する。

4 スケジュール（詳細は別表のとおり）

平成29年度：既存情報の把握、整理

平成30年度：一次調査（基礎的な情報収集と整理）、
二次調査（重要遺跡の詳細調査）

平成31年度：二次調査（補足調査）、
総括（調査成果の分析と評価）、
調査内容に基づく成果報告書の作成

5 国庫補助等

埋蔵文化財緊急調査費国庫補助（遺跡詳細分布調査 補助率50%）を適用。

6 調査結果の取扱い

- ・調査の成果は調査報告書として刊行し、県内の文化財関係機関や図書館に送付して幅広く閲覧に供する。
- ・地域にとって特に重要なものについては、文化財保護法第95条に基づき「埋蔵文化財包蔵地」に決定して保護の対象とし、周知の徹底を図る。
- ・特に重要な遺跡については、国、県又は市町村による史跡指定や登録文化財選定による保護を推進する。

図7 福岡県戦争遺跡調査基本方針

※平成29年度4月当初

図8 「調査表の内容：対象物件の分類」は、
2018年10月現在の暫定数
福岡県教育委員会提供

【調査表の内容：対象物件の分類】

		①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他			①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他		
1	北九州市	11	90	13	1	29	3	10	76	233	30	糟屋郡 宇美町							1	1	
2	福岡市	3	30	4	1	11	2		56	107	31	〃 篠栗町	1	2					1	4	
3	大牟田市		5		7	6			33	51	32	〃 志免町		2					1	3	
4	久留米市	16	3	1	1	2	6		45	74	33	〃 須恵町		1				1	5	7	
5	直方市		0	1	1	2	2		10	22	34	〃 新宮町	3						11	14	
6	鹿屋市		1			3			38	42	35	〃 久山町	3						1	4	
7	田川市					1			5	6	36	〃 粕屋町	1						4	5	
8	柳川市		1						48	49	37	遠賀郡 戸塚町	3						2	5	
9	八女市		3			2			25	30	38	〃 水巻町	1		1	4			6	12	
10	筑後市		1				2		47	50	39	〃 岡垣町	6						1	7	
11	大川市								8	8	40	〃 遠賀町			1	2	1		14	18	
12	行橋市		10	3	2				33	48	41	鞍手郡 小竹町							1	1	
13	豊前市			1	1				18	20	42	〃 鞍手町							10	10	
14	中間市	1	2			2			2	7	43	嘉穂郡 桂川町		1		2			2	5	
15	小倉市		6		4	9	2	1	30	52	44	朝倉郡 筑前町	2	10	1				16	29	
16	筑紫野市	2	1		1				44	48	45	〃 重峰村							5	5	
17	春日市		1	2		3			9	15	46	三井郡 大刀洗町	1	12	1	1		1	1	15	32
18	大野城市		7	10			5		12	34	47	三潁郡 大木町							5	5	
19	宗像市	3	15			1			24	43	48	八女郡 広川町							3	3	
20	太宰府市		1			2			8	11	49	田川郡 香春町		2		1			3	6	
21	古賀市	4	10	8	1	7			30	60	50	〃 浜田町	2						4	6	
22	福津市	1	5	1					22	29	51	〃 糸田町							2	2	
23	うきは市		1	1					11	13	52	〃 川崎町				2			11	13	
24	宮若市		1			1			7	9	53	〃 大任町							3	3	
25	嘉麻市		1			1			7	9	54	〃 赤村			1	2			5	8	
26	朝倉市	1	9	2	1	2	1		32	48	55	〃 福智町							11	11	
27	みやま市			1					5	6	56	京都郡 苅田町		2		1			4	7	
28	糸島市	1	16	1	2	6			33	59	57	〃 みやこ町	3	1			1		14	19	
29	那珂川市			1	1	2			14	18	58	築上郡 吉富町							2	2	
											59	〃 上毛町							5	5	
											60	〃 築上町		3	1		2		17	23	
		43	226	50	24	92	23	11	732	1201			6	51	7	5	14	5	2	185	275
	総計	49	277	57	29	106	28	13	917	1476											



写真4 菊池飛行場全容の空
撮写真
1945年7月27日
米国極東航空軍7航空群偵
察機F13による撮影

工藤洋三氏提供

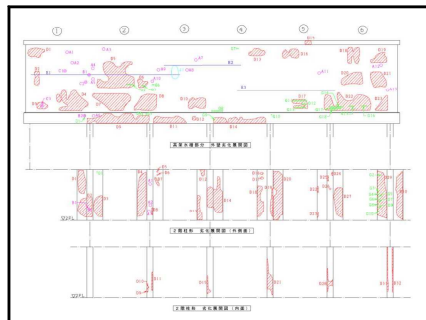
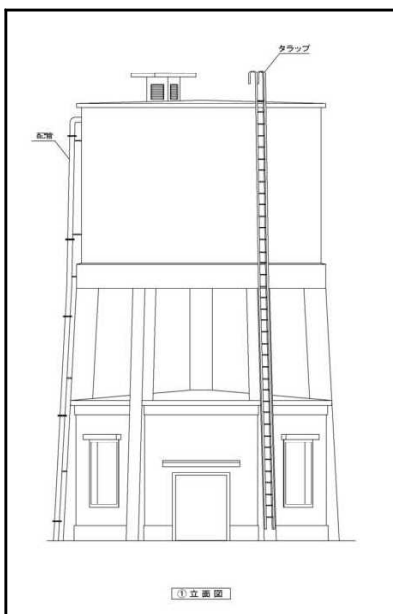


図9 花房給水塔実測図
図10 給水塔受水部の劣化・薄
利状況図
写真5 花房給水塔劣化・被災状
況写真（修復前）
図11 花房給水塔復元・資料館
イメージ図（平成22年度）
写真6・7・8
花房給水塔復元の各部写真

